様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２５ 日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）
研究期間：2018～2023
課題番号：１８ＫＫ０００５

研究課題名（和文）フランス演劇における公共性の諸相の再検討

研究課題名（英文）Reconsidering Aspects of 'Publicness' in French Theatre

研究代表者
藤井　慎太郎（Fujii, Shintaro）

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：１０３５０３６５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　8,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究において、研究代表者・分担者はフランスの図書館・アーカイヴ・劇場において現地調査を行うとともに、フランスでのJournees d'etudesを3回開催し、日仏の研究者による発表と討議を行なった（3回目はコロナ禍の勃発期にあたり、後日、オンラインで開催した）。その成果はRevue d'histoire du theatreの特集号として2022年に刊行された。日本入国制限のために、フランス側研究者の日本招聘ができず、期間延長を繰り返したものの、2023年度に2名の講師を2回にわたって招聘し、計6回の公開研究会を早稲田大学で開催し、本研究の計画に盛り込んだ事業をすべて実施することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究はフランスにおいて、いかなる意味において演劇が公共的なものであるのか、公共劇場／民間劇場の単純化された二項対立的枠組みを超えて、多面的かつ詳細に分析することを目指した。その成果の集大成であるRevue d'histoire du theatreの特集号には、主としてJournees d'etudesに参加した研究者12名が論文を投稿した。さらに、計4名のフランスの研究者を日本に招聘して計6回の連続研究会の開催を通じて、そうした知の最先端を日本の学界にも還元することができたと考える。また、本プロジェクトに参加した日本の若手研究者2名が専任職を得ており、研究者育成にも寄与することができた。

研究成果の概要（英文）：Our project involved, first of all, individual research conducted in libraries, archives, and theatres in France. We also organised three public Journees d'etudes in the format of academic conferences in France, with presentations by scholars from both Japan and France, followed by discussions with other participants. The third Journee d'etudes was held online at a later date due to the outbreak of the COVID-19 pandemic. The results were published in a special issue of the Revue d'histoire du theatre in 2022. The pandemic, especially the entry restrictions into Japan for foreign nationals, made it impossible to organise the seminar in Japan with our French colleagues, causing the project to be repeatedly extended. However, in the academic year 2023, we invited two lecturers on two occasions to organize three sessions each, for a total of six sessions, open to the public, held at Waseda University. This allowed us to complete all the planned activities for this research project.

研究分野：演劇学

キーワード：演劇　フランス　公共性

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

フランスでは、演劇に対する公的関与の歴史は 17 世紀のルイ 13 世・14 世の時代に遡るが、公共演劇／劇場（théâtre public）という用語がそれまでの民衆演劇に代わって広く用いられ始めたのは 1970 年代である。第二次世界大戦後、福祉国家建設の一環として、西欧各国で「あらゆる人々のための文化」の実現が目標とされ、フランスにおいても、文化省（1959）が設立され、文化の民主化・地方分散化政策を推進すべく、国・自治体が協力して、地方都市に文化施設が多く整備された。ミッテラン政権（1981～）は文化予算を倍増させ、芸術のエリート的な性質と民主主義の要請を両立させるべく、きわめて充実した公共劇場、公的助成、公的人材育成の制度を拡充した。地方文化施設が整備され、芸術文化もまた公共サービス（service public）の一部と見なされるに至った。今日でもフランス政府の文化予算は世界有数の水準を維持し、充実した公共劇場ネットワークを擁している。フランスでは演劇の公共性（演劇が公共の財産にして公権力がその維持と発展に対して責任を持つべき対象、“res publica”であること）は当然視されることも多い。しかし、金融危機後の緊縮財政、行政の効率化の波にさらされ、文化政策は目的と手段において「民営化」（privatisation）を伴う再構築が求められており、フランス演劇の「公共性」を再検討する時期に来ている。

２．研究の目的

公共演劇／劇場の起源は、演劇が公権力の強い関与のもとに制度化された王政期、（これに対立するものとして公共演劇／劇場が定義される限りで）18-19 世紀に発展した商業演劇／民間劇場、19 世紀末以降の自由劇場／民衆演劇運動に求められる。本研究は 1）公共性（public）概念そのものの再検討、2）フランス演劇と公権力（pouvoir public）との関係、公共政策（politique publique）としての演劇政策、3）観客（le public）をめぐる思想と実践、4）民間劇場（théâtre privé）との関係、5）日本との比較という視点から、フランス演劇における公共性にアプローチする。フランス演劇における“public”な領域は、“privé”の領域と複雑に交差し合いながら発展を遂げてきたことを踏まえ、17 世紀から現代に至るフランス演劇における公共性の歴史的な生成過程、現在における複雑なありようを正確に把握、分析、記述することを目的とする。

３．研究の方法

研究代表者・分担者は定期的にフランスに渡航し、図書館・アーカイヴ・劇場において調査を実施し、関係者に聞き取りを行う。並行して、パリ・ナンテール大学の全面的な協力のもと、パリにおいて定期的に公開研究会（journée d’études）を開催する。そこで研究成果を発表し、日本およびフランスの研究者との討議・交流を経ることで議論をより精緻化し、論文のかたちで成果を公表する。最終的には、フランス語の論文集のかたちで成果を刊行する。

４．研究成果

個別的・具体的な研究成果は別表の通りである。ここでは理論的な研究成果の概要を示す。

1）公共性概念

公共性は非常に多義的な概念であり、齋藤純一は『公共性』（2000）の中で、公共性（publicness）の 3 つの「主要な意味合い」として 1）「国家に関する公的な（official）もの」、2）「特定の誰

かにではなく、すべての人びとに関係する共通のもの（common）」、3）「誰に対しても開かれている（open）」ものを挙げている。一方、ハーバーマスが用いた「公共性／公共圏」（Öffentlichkeit）の語はそもそもフランス語の“publicité”の翻訳語であったが、現代フランス語では“publicité”は「商業広告」を第一に意味し、「公共性」を意味することはまずない（「公共性」を抽象的に一言で表す単語は存在しない）。“public”の語は名詞としては集合的に「観客」「読者」（まずこの点において観客なしには成立し得ない演劇と関係する）、さらに不特定多数の「公衆」「人民」を意味し、形容詞としては「人々の全体に関係する」「（人民に由来する）国家に関係する」状態を意味する。一方、ギリシア語の“polis/oikos”、ラテン語の“publicus/privatus”の対立を引き継ぎ、今日でも“public”はまず“privé”と対立的に捉えられ、公共演劇／劇場も商業演劇／民間劇場は対立的に捉えられている。

2）公権力との関係、公共政策としての演劇政策

フランス演劇はまず宮廷とその周辺において発展した。ルイ 14 世によって王立音楽アカデミー／パリ・オペラ座（1669）、コメディ＝フランセーズ（1680）が創設され、演劇は王権・国家を代表・象徴する公式の性格を与えられ（ハーバーマスのいう「具現的公共性」）、国家制度の一部を構成するようになる。一方、カトリック教会からは不道徳なものとして敵視され、劇場は一般的に「悪場所」と見なされた。

1862 年にパリ大改造計画の一環で劇場街「犯罪大通り」が消滅した際に、その埋め合わせとしてパリ市立劇場とシャトレ座（ともに 1862）やパリ・オペラ座ガルニエ宮（1875）など、公人が集うことができる堂々たる劇場が開場して、劇場から悪場所の性質が払拭される。この時期には公教育美術省（1870-1959）の存在が象徴するように、芸術は国家の政策対象としても認知された（だが演劇に対する公的支出は象徴的な水準にとどまる）。自由劇場運動（1887～）は当時の演劇を支配していた商業主義を批判し、国家による検閲や収益性の制約を逃れようとして、当初は私的な会員組織のかたちをとった。商業主義を嫌って芸術としての演劇を追求する姿勢は、戦後の公共演劇の一種の理念型となる。

戦後に演劇に対する公的関与はさらに増大した。文化省（1959）が設立され、文化の民主化・地方分散化政策を推進すべく、地方都市に文化施設が多く整備された。ミッテラン政権（1981～）は文化予算を倍増させ、芸術のエリート的な性質と民主主義の要請を両立させるべく、きわめて充実した公共劇場、公的助成、公的人材育成の制度を拡充した。だが金融危機後の緊縮財政、行政の効率化の波にさらされ、文化政策は目的と手段の再構築が求められている。

3）観客をめぐる思想と実践

自由劇場運動とほぼ同時に興り 1960 年代まで続いた民衆演劇運動は、観客が大都市のブルジョワジーに偏っていることを問題視し、入場料の低廉化、民衆への働きかけ、地方都市での劇場建設によって観客の拡大、演劇の民主化を図ろうとした。政府も国立移動劇場（1911-12）、国立民衆劇場（1920～）、国立演劇センター（1946～）、文化の家（1960～）の創設によってそれに応えた。五月革命の際に「文化の民主化」の失敗を認めたヴィラールバンヌ宣言（1968）、「市民の劇場」を目指したジェラール・フィリップ劇場の実験とその挫折（1998）などの手痛い失敗を経て、今日の劇場制度においても観客の拡大は非常に重視されている。さらに「関係性の美学」（ブリオー）さらに「敵対性」（ムフ、ビショップ）に影響を受けた現代の舞台作品においても観客との関係の構築は重要な関心事である。

4）民間劇場との関係

公共演劇／劇場の対立項ともいうべき商業演劇／民間劇場もまた歴史の古いものである。国王の勅許を得た 3 劇場では満たしえない観客の需要に応えるべく、18 世紀に商業活動（定期市）

に付随して「市の芝居」という非公認劇場が生まれ、パントマイムやオペラ＝コミックを生み出し、劇場街「犯罪大通り」、ブルヴァール演劇へと発展した。フランス革命後、劇場開設は一時的に自由化されるが(1791-1806)、ナポレオンの登場によって再び厳しい規制の対象となる。ナポレオン 3 世の劇場開設の自由に関する勅令（1864）によってまず経済活動としての劇場経営が自由化され、多くの民間劇場が生まれ、華やかな劇場文化が開化した。こうした商業演劇は、自由劇場運動以降の現代演劇が形成されていく際に、否定すべき対立物と見なされ、多大な影響を与えた。

5）日本との比較

日仏の比較を通じて、両者の特徴はよりよく理解される。国立劇場の創設、すなわち国家の演劇政策の策定を求める声は 20 世紀初頭から存在したが、日本演劇は美術や音楽と比較しても遅れて公的支援の対象となり（国立劇場の創設は 1966 年を待たねばならない)、公的助成は低い水準のままで脆弱な基盤の上にある。商業演劇を除くと観客数も限られ、商業的成功を目指すか私的活動にとどまることをしばしば強いられている。

6）コロナ禍の影響

本研究を実施している最中に、世界はコロナ禍に見舞われた。コロナ禍に対する応答として、フランス政府は世界にも類を見ない水準の芸術文化支援を行なった。芸術文化が有する公共的価値があらためて評価されたこと、未曾有の事態に直面して、既存の組織と資金配分制度を活用しながら、迅速かつ柔軟に大規模支援がなされたことは特筆に値する。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計24件（うち査読付論文　17件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　8件）

１．著者名 藤井慎太郎	４．巻 -
２．論文標題 日本の夢、民主主義のユートピア、あるいは別れの挨拶 ― 太陽劇団『金夢島L’ILE D’OR Kanemu-Jima』における病の表象を手がかりに	５．発行年 2024年
３．雑誌名 病とその表象　La Maladie et ses representations	６．最初と最後の頁 78-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 ―

１．著者名 Shintaro Fujii	４．巻 -
２．論文標題 Reve du Japon, utopie de la democratie ou au revoir ? : tentative d’analyse a partir de la representation de la maladie dans L’Ile d’or - Kanemu-Jima du Theatre du Soleil	５．発行年 2024年
３．雑誌名 病とその表象　La Maladie et ses representations	６．最初と最後の頁 82-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 ―

１．著者名 藤井慎太郎	４．巻 -
２．論文標題 フランス演劇の2022/23年 やまぬ戦争と悪化する公共劇場の財政状況	５．発行年 2024年
３．雑誌名 国際演劇年鑑2024	６．最初と最後の頁 82-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 ―

１．著者名 Kaori Oku	４．巻 21
２．論文標題 Utopie et decouverte. Representations de La Dispute au Japon	５．発行年 2023年
３．雑誌名 European Drama and Performance Studies	６．最初と最後の頁 275-286
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 ―

1．著者名 藤井 慎太郎	4．巻 76
2．論文標題 「再演」の現代詩学	5．発行年 2023年
3．雑誌名 演劇学論集 日本演劇学会紀要	6．最初と最後の頁 33-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18935/jjstr.76.0_33	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 藤井慎太郎	4．巻 2022
2．論文標題 フランス演劇の2021/22年 コロナ禍からウクライナ戦争、エネルギー危機へ 試練が続く演劇界	5．発行年 2023年
3．雑誌名 国際演劇年鑑2023	6．最初と最後の頁 58-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤井慎太郎	4．巻 48
2．論文標題 クリエイティブ・ヨーロッパ・プログラム ブレグジットとコロナ禍を超えて	5．発行年 2022年
3．雑誌名 地域創造	6．最初と最後の頁 84-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤井慎太郎	4．巻 14
2．論文標題 コロナ禍における芸術文化と公共性 フランスの文化支援策の考察を通じて	5．発行年 2021年
3．雑誌名 文化政策研究	6．最初と最後の頁 33-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Shintaro Fujii	4．巻 292
2．論文標題 Un Secteur introuvable ? La Longue marche du theatre public au Japon	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Revue d'histoire du theatre	6．最初と最後の頁 183-192
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Patrick De Vos	4．巻 292
2．論文標題 Des “pitres dansant” au patrimoine national : le kabuki au tournant de Meiji	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Revue d'histoire du theatre	6．最初と最後の頁 165-179
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kaori Oku	4．巻 292
2．論文標題 La Comedie-Francaise au XVIIIe siecle : les privileges publics et leurs contreparties	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Revue d'histoire du theatre	6．最初と最後の頁 19-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 奥香織	4．巻 36
2．論文標題 道化の演戯と奇なる世界――1720年代パリの定期市芝居とアルルカンの身体――	5．発行年 2021年
3．雑誌名 日本18世紀学会年報	6．最初と最後の頁 27-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤井慎太郎	4．巻 -
2．論文標題 フランス演劇の2020/2021年 やまないコロナ禍の嵐 不透明な見通し、刻まれる歴史	5．発行年 2022年
3．雑誌名 国際演劇年鑑2022	6．最初と最後の頁 86-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤井慎太郎	4．巻 14
2．論文標題 コロナ禍における芸術文化と公共性 フランスの文化支援策の考察を通じて	5．発行年 2021年
3．雑誌名 文化政策研究	6．最初と最後の頁 33-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤井慎太郎	4．巻 -
2．論文標題 フランス演劇の2019/2020年 コロナ禍の絶望と希望の中で 問い直される演劇の公共性	5．発行年 2021年
3．雑誌名 国際演劇年鑑2021	6．最初と最後の頁 126-137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 藤井慎太郎	4．巻 46
2．論文標題 コロナ禍におけるフランスの文化支援策 舞台芸術を中心に	5．発行年 2021年
3．雑誌名 地域創造	6．最初と最後の頁 79-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤井慎太郎	4．巻 111
2．論文標題 芸術文化から見たコロナ禍とフリーランスの課題	5．発行年 2020年
3．雑誌名 都市問題	6．最初と最後の頁 37-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤井慎太郎	4．巻 -
2．論文標題 コロナウイルス時代の芸術 いま、何がなされるべきか？	5．発行年 2020年
3．雑誌名 美術手帖web	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤井慎太郎	4．巻 49
2．論文標題 フランス演劇の2018/19年　消えない不穏な空気　明日への起爆剤となるか	5．発行年 2020年
3．雑誌名 国際演劇年鑑2020	6．最初と最後の頁 153-163
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤井 慎太郎	4．巻 66
2．論文標題 はじめに　ドラマトゥルクとドラマトゥルギーをめぐって	5．発行年 2018年
3．雑誌名 演劇学論集 日本演劇学会紀要（特集「ドラマトゥルクとドラマトゥルギー」責任編集）	6．最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18935/jjstr.66.0_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Shintaro Fujii	4．巻 hors-serie
2．論文標題 Le Theatre japonais au prisme des notions de "public" et de "prive"	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Alternatives theatrales	6．最初と最後の頁 5-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤井慎太郎	4．巻 44
2．論文標題 舞台芸術のための公的助成制度の新しい潮流	5．発行年 2018年
3．雑誌名 地域創造	6．最初と最後の頁 68-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤井慎太郎	4．巻 -
2．論文標題 フランス演劇の2017/18年　多様性をめぐって、再び	5．発行年 2019年
3．雑誌名 国際演劇年鑑2019	6．最初と最後の頁 124-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 藤井慎太郎	4．巻 68
2．論文標題 ジャポニスム2018　舞台芸術を振り返って	5．発行年 2019年
3．雑誌名 をちこち	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計21件（うち招待講演　14件／うち国際学会　16件）

1．発表者名 Shintaro Fujii
2．発表標題 Mal du Japon : la representation de la maladie dans L'Ile d'or - Kanemu-Jima du Theatre du Soleil
3．学会等名 日仏シンポジウム「病とその表象」Colloque franco-japonais Les Maladies et leurs representations（国際学会）
4．発表年 2024年

1．発表者名 Shintaro Fujii
2．発表標題 Le Spectacle vivant au tournant archivistique : constats et quelques questions methodologiques
3．学会等名 Workshop "Comparative Dramaturgy: Methods and Challenges"（国際学会）
4．発表年 2023年

1．発表者名 Patrick De Vos
2．発表標題 Le Buto : des corps-archives aux archives du corps
3．学会等名 Workshop "Comparative Dramaturgy: Methods and Challenges"（国際学会）
4．発表年 2023年

1．発表者名 Kaori Oku
2．発表標題 Periodisation, historiographie et 'modernites' au theatre
3．学会等名 Workshop "Comparative Dramaturgy: Methods and Challenges"（国際学会）
4．発表年 2023年

１．発表者名 Kaori Oku
２．発表標題 Bouffon masque et imagination du public : Arlequin entre theatre et peinture au XVIIIe siecle en France
３．学会等名 Meiji University-Edinburgh University Collaboration Symposium "Masks and Screens"（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 藤井慎太郎
２．発表標題 コロナ禍のフランスの文化政策　文化は「不要不急」か
３．学会等名 明治大学国際連携本部主催｜フランス研究イベント（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Shintaro Fujii
２．発表標題 Performing Arts Festivals in Japan during the Olympics and COVID-19
３．学会等名 ICCPR Kyoto（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 藤井慎太郎
２．発表標題 公共の広場としての劇場が閉ざされたとき フランス語圏演劇に見る応答のかたち マリオン・シエフェール作・演出『ジャンヌ・ダーク』を中心に
３．学会等名 西洋比較演劇研究会2020年12月例会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 藤井慎太郎
２．発表標題 コロナ時代のケベック舞台芸術
３．学会等名 日本ケベック学会2020年度全国大会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 藤井慎太郎
２．発表標題 コロナ時代のアート 距離と中断のドラマトゥルギー
３．学会等名 東京大学芸術創造連携研究機構主催シンポジウム「コロナ時代のアート」（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 岩井秀人、川口隆夫、宮城聰、藤井慎太郎（モデレーター）
２．発表標題 ラウンドテーブル（舞台芸術）
３．学会等名 日仏会館シンポジウム「Japonismes 2018: 響きあう魂　その成果と継承」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 アリアーヌ・ムヌーシュキン、パトリック・ドゥヴォス、宮城聰、藤井慎太郎（モデレーター）
２．発表標題 ラウンドテーブル
３．学会等名 京都賞公開ワークショップ「太陽劇団の軌跡」（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kaori Oku
２．発表標題 La sensibilite au theatre dans la deuxieme moitie du XVIIIe siecle francais
３．学会等名 15th International Congress on the Enlightement / 15eme Congres International sur les Lumieres（国際18世紀学会）、エジンバラ大学（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kaori Oku
２．発表標題 Dans les franges du monopole : les theatres de la foire au XVIIIe siecle
３．学会等名 Journee d’etude "Le Theatre francais au prisme des notions de “ public ” et de ”prive”" パリ・ナンテール大学（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kaori Oku
２．発表標題 En marge des Lumieres : Arlequin sur les scenes de la Foire
３．学会等名 Colloque international "Les Lumieres dans leurs contextes" ソウル大学（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 藤井慎太郎
２．発表標題 シンポジウム「フランスは日本をどう観たか？ 「ジャポニスム 2018：響きあう魂」現代演劇シリーズを検証する」モデレーター
３．学会等名 シンポジウム「フランスは日本をどう観たか？ 「ジャポニスム 2018：響きあう魂」現代演劇シリーズを検証する」（アンスティチュ・フランセ東京、2019年1月30日）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Patrick De Vos
２．発表標題 Traduire le theatre
３．学会等名 国際シンポジウム「世界文学の可能性、日仏翻訳の遠近法」（日仏会館、2018年4月14日）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 パトリック・ドゥヴォス
２．発表標題 パスカル・キニャールとパフォーマンス
３．学会等名 シンポジウム「パスカル・キニャールとの対話」（東京大学、2018年5月12日）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 パトリック・ドゥヴォス
２．発表標題 翻訳について
３．学会等名 パスカル・キニャール・シンポジウム「旅、ことばから、ことばへ」（日仏会館、2018年5月13日）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 パトリック・ドゥヴォス
２．発表標題 シンポジウム「舞踊の60年代」モデレーター
３．学会等名 シンポジウム「舞踊の60年代」（東京大学、2019年2月27日）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kaori Oku
２．発表標題 Representer le corps republicain : "naturel" selon Talma
３．学会等名 フランス18世紀演劇研究会主催シンポジウム「フランス大革命における演劇と公共空間」（慶應義塾大学、2018年12月15日）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計15件

１．著者名 藤井慎太郎 Shintaro Fujii	４．発行年 2024年
２．出版社 早稲田大学国際日本学拠点	５．総ページ数 118
３．書名 病とその表象 La Maladie et ses representations	

１．著者名 Patrick De Vos（分担翻訳）	４．発行年 2023年
２．出版社 Atelier Akatombo	５．総ページ数 168
３．書名 Theatre selon Mishima I	

１．著者名 Patrick De Vos（分担翻訳）	４．発行年 2023年
２．出版社 Atelier Akatombo	５．総ページ数 120
３．書名 Theatre selon Mishima II	

１．著者名 奥香織（編集委員、分担執筆）	４．発行年 2023年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 714
３．書名 日本18世紀学会 啓蒙思想の百科事典編集委員会編『啓蒙思想の百科事典』	

１．著者名 Tomohiro Maekawa (trad. Patrick De Vos)	４．発行年 2021年
２．出版社 Editions Espace 34	５．総ページ数 136
３．書名 La Promenade des envahisseurs	

１．著者名 パスカル・キニャール（翻訳　桑田光平、堀切克洋、パトリック・ドゥヴォス）	４．発行年 2021年
２．出版社 水声社	５．総ページ数 225
３．書名 ダンスの起源	

１．著者名 奥香織「グランド・オペラにおける「タブロー」の手法と実践」（349-368頁）	４．発行年 2022年
２．出版社 森話社	５．総ページ数 536
３．書名 丸本隆ほか編『パリ・オペラ座とグランド・オペラ』	

1．著者名 森佳子（編著）、奥香織（編著）、新沼智之（編著）、萩原健（編著）、大崎さやの、村島彩加、藤原麻優子、小菅隼人、中野正昭、赤井朋子、辻佐保子、田中里奈	4．発行年 2020年
2．出版社 森話社	5．総ページ数 304
3．書名 演劇と音楽（うち、奥香織「定期市の舞台から「ナショナル」な歌劇へ―国家・公権力との関係にみるオペラ=コミックの特質」 pp．189-222）	

1．著者名 奥香織（編）	4．発行年 2020年
2．出版社 明治大学文学部	5．総ページ数 128
3．書名 フランス革命とスペクタクル	

1．著者名 藤井慎太郎（編集）　パトリック・ドゥヴォス（編集協力）	4．発行年 2020年
2．出版社 稲盛財団	5．総ページ数 36
3．書名 太陽劇団の軌跡 Trajectoires du Theatre du Soleil（日仏バイリンガル出版）	

1．著者名 山下純照・西洋比較演劇研究会編	4．発行年 2019年
2．出版社 月曜社	5．総ページ数 594
3．書名 『西洋演劇論アンソロジー』（藤井慎太郎と奥香織が共編者に加わり、それぞれ5人6本、6人9本のテクストの翻訳と解説を担当）	

1．著者名 西洋比較演劇研究会編	4．発行年 2020年
2．出版社 論創社	5．総ページ数 784
3．書名 『ベスト・プレイズII　西洋古典戯曲13選』（奥香織がマリヴォー『愛と偶然の戯れ』（翻訳と解説）、319-364頁を担当）	

1．著者名 Shintaro Fujii et Christophe Triau (sous la direction de)	4．発行年 2018年
2．出版社 Alternatives theatrales	5．総ページ数 80
3．書名 Scene contemporaine japonaise	

1．著者名 Shintaro Fujii, "Reflecting upon Freedom with Meiro Koizumi"	4．発行年 2019年
2．出版社 Routledge	5．総ページ数 364
3．書名 Peter Eckersall, Helena Grehan (eds.), The Routledge Companion to Theatre and Politics	

1．著者名 Patrick De Vos, "Tokyo, 1968 - L’Insurrection de la chair"	4．発行年 2018年
2．出版社 Deuxieme Epoque	5．総ページ数 318
3．書名 Isabelle Launay & Sylviane Pages (sous la direction de), Danser en 68 : perspectives internationales	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	ＤＥ．ＶＯＳ　ＰＡＴＲＩＣＫ (De Vos Patrick) (00242032)	東京大学・大学院総合文化研究科・名誉教授 (12601)	
研究分担者	奥　香織 (Oku Kaori) (30580427)	明治大学・文学部・専任准教授 (32682)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	田ノ口　誠悟 (Tanokuchi Seigo) (00866337)	静岡文化芸術大学・文化政策学部・講師 (23804)	
研究協力者	北原　まり子 (Kitahara Mariko) (50984449)	日本学術振興会・特別研究員PD	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
フランス	パリ・ナンテール大学	演劇史協会	ブリュッセル自由大学	他1機関